

『Windows Vista』使用レポート

『Windows』の新 OS 『Vista (ビスタ)』が発売されました。私の場合、日常の業務では、あわててビスタにする必要はまったくないのですが、「デジカメ専門パソコン教室」などと看板を掲げている上に、デジカメ画像の色調補正ができる新機能があると聞いては知らない訳には行かず、ビスタを入れてみました。幸い、昨年の夏に 1000 万画素の RAW 現像や卒業アルバムの編集をスムーズに作業するために導入したパソコンが、必要システムを十分に満たしていたので問題なく入れることができました。ビスタの基本的な特徴はパソコンの専門誌に任せるとして、色調補正ができる新機能「Windows フォトギャラリー」についてご報告したいと思います。

●Windows フォトギャラリーとは



ビスタに付属された画像管理ソフトで、ニコンの「ピクチャー・プロジェクト」やキャノンの「ズーム・ブラウザー」など、デジカメに付属されているソフトと同様の画像ソフトです。データベース方式の画像ソフトなので、画像をソフトに登録する必要がありますが「ピクチャ」フォルダ (ビスタでは「マイドキュメント」や「マイピクチャ」、「マイコンピュータ」などの名称が「マイ」をはぶいて「ドキュメント」、「ピクチャ」と表示されます。) と連携しているので「ピクチャ」フォルダに取り込むだけで自動的に登録されます (ピクチャフォルダ外の画像は手動で登録)。また、画像ファイルを直接、削除、移動 (ピクチャフォルダ内で) した場合も反映されるので、登録をやり直す必要がありません。タグ機能も備わっているので、好みのキーワードで整理することもできます。さらに、各カメラメーカーが配布する「RAW コーデック」をパソコンに入れることにより、そのメーカーの RAW 画像も表示させることができます (色調補正、RAW 現像は不可)。一覧表示のサムネイルのサイズは変更できませんが、ポインタを画像に合わせてその画像が少し大きく表示されます。さて、色調補正の機能ですが、予想に反して意外と使える性能です。一覧表示されている中の画像を選択して、ツールバーの「修正」をクリックすると画像が拡大表示され右の図のようなメニューが表示されます。「自動調整」は当てになりませんが、ほかの項目は結構きれいに補正できますので、画像全体を簡単に補正する時は便利です。また、トリミングも自由にでき、補正やトリミングした状態で保存しても後から元に戻せる (自動的に画像のコピーを保存している) のも良くできていると思います。残念なのは撮影情報を見たい時、いちいち画像のプロパティの詳細を呼び出さなくてはならないことで、このあたりはデジカメ付属のソフトや市販の画像ソフトの方が便利です。



●ビスタに簡単に移行できるか？

「今、使っているパソコンをビスタに」とお考えの方もおられると思いますが、ビスタの求めるパソコンの必要システムは、かなりハードルが高いので十分に注意して下さい。最低要件を満たしているだけでは動作が重く、とても快適には使えません。重要なのはメモリの容量とグラフィックボードです。グラフィックボードは、過去の OS や一般的なソフトでは重要視されなかったもので、何のこともご存知ない方もおられると思います。パソコンのモニタに画像を表示させるための部品ですが、他の部品が役目を兼ねて省略されているパソコンも多くあります。グラフィックボードがついていてもグラフィックメモリ (メインメモリとは別にグラフィックボードについているメモリ) の容量が最低 128MB 必要になります。結論として、特に不満なく使えているのであれば、無理にビスタにする必要はありません。どうしてもビスタにしたいのであれば、初めからビスタが入ったパソコンに買い換えるのが無難です。その場合、ビスタにはパソコンの性能を判定して点数を表示する機能 (最高 5.9 点) があるので、デジカメの画像処理が目的であれば、この点数が悪くても 3 点以上、できれば 4 点以上のパソコンをお求めになることをお勧めします。

ビスタ・ホームプレミアム以上の必要システム

CPU	1GHz 以上 / 推奨:デュアルコア CPU
メモリ	1GB / 推奨: 2GB 以上
HDD	40GB 以上
グラフィックボード	DirectX9・32bit カラー対応、他
グラフィックメモリ	128MB / 推奨: 256MB 以上